

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ
臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

受精確認時刻の最適化に向けた検討
～卵子前培養時間および精子処理後の待機時間が胚盤胞到達に及ぼす影響～

1. 対象となる患者さん

2024年6月から2025年12月までに当院で体外受精を施行した患者さんのうち、媒精方法を用いて治療をされた患者さん(女性年齢25～45歳)を対象とします。

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 高度生殖医療センター 岸田和美

3. 研究の目的と意義

当院では、体外受精における受精確認を、媒精(卵子と精子をあわせる操作)の翌日に行っています。しかし、確認までの時間が長くなることで、本来は正常に受精していても、正しく評価できない可能性があります。

本研究では、受精確認をより適切な時間(媒精後17～19時間)に行うことが、正常受精率や胚盤胞到達率の向上につながるかどうかを検討します。

本研究により、受精評価の精度向上と、より適切な胚培養体制の確立に役立つことが期待されます。

4. 研究の方法

5. に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集します。本研究では、卵子と精子の取り扱い時間の違いが、その後の胚の発育(胚盤胞までに育つ割合)に影響するかどうかを検討します。そのために、通常診療で得られた診療情報のうち、本研究に必要な項目を患者さんのカルテから収取し、統計学的に解析します。追加の検査や処置をお願いすることはありません。

5. 使用する情報

女性側：年齢、採卵回数、成熟卵数、受精率、胚盤胞到達率、卵子前培養時間

男性側：年齢、精液所見(濃度、総精子数、運動率、正常形態率、白血球濃度)、精液処理
後媒精までの待機時間

を診療録より収集します。

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

研究機関長の実施許可日～2026年12月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 高度生殖医慮センター 岸田和美

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-29-8877

e-mail：k-kishida@naramed-u.ac.jp